

8 調査・研究の実施

8 - 1 環境モニタリングの実施

1 主な環境モニタリングの内容(大気水質保全課)

県が実施する主な環境モニタリングの内容は、次のとおりです。

- (1)大気汚染常時監視
「大気汚染防止法」に基づき大気汚染の状況を把握するため、一般環境大気測定局10局及び自動車排出ガス測定局2局の合計12局で窒素酸化物や浮遊粒子状物質等による汚染状況を常時監視している。
また、ベンゼン、トリクロロエチレン等の有害大気汚染物質について5地点においてモニタリング調査を実施している。
- (2)公共用水域及び地下水の水質の常時監視
河川、湖沼の水質の状況を定期的に把握し、各種水質保全施策の基礎資料とするため、53地点においてBOD、CODなどの環境基準項目等の水質調査を実施。また地下水の状況を定期的に把握するため、概況調査を行い、過去の調査により環境基準を超過等し、継続的に監視するためモニタリング調査を実施する。
- (3)ダイオキシン類の調査
ダイオキシン類による一般環境中の汚染状況を把握するため、大気3地点、公共用水域7地点、地下水9地点、土壤中7地点の調査を実施。
- (4)騒音・振動の調査
幹線道路沿道地域の生活環境の保全を図るため、自動車騒音の常時監視を行う。
- (5)地盤沈下の調査
地盤沈下を未然に防止するため、一級水準測量調査や地下水位観測を行い地盤沈下の状況を把握する。

大気汚染常時監視、公共用水域及び地下水の水質の常時監視、ダイオキシン類の調査、騒音・振動及び地盤沈下に係る調査結果については、「3 さわやかな生活環境の保全と創造」及び資料編に掲載しました。

8 - 2 環境科学研究の推進

1 環境科学研究所(富士山科学研究所)(企画課)

環境科学研究所(富士山科学研究所)は、本県の将来を見据え、予見的、予防的な視点に立った環境行政の展開を支援することを基本として、平成9年4月に開所しました。

研究活動は、「自然環境・富士山火山研究部」、「環境健康研究部」及び「地域環境政策研究部」の各研究部門において、それぞれの研究者が国内外の研究機関と連携しながら、中長期的な視点から研究として取り組む「プロジェクト研究」、研究者が各専門分野において基礎的な研究として取り組む「基盤研究」、並びに緊急の行政課題に対応するために取り組む「特定研究」などを進めており、その成果を着実に積み重ねてきています。主な研究活動の状況は次のとおりです。

区分	研 究 テ ー マ	研究期間
プロジェクト研究	山梨のジオ情報を利活用した地域環境特性に関する研究	H 24 ~ 28
	甲府盆地地域の夏季暑熱環境の実態とヒートアイランド現象の緩和要因についての研究	H 22 ~ 26
	石油生産性微細藻 <i>Botryococcus brunii</i> の廃棄ウレタン燃料化への活用に関する研究	H 23 ~ 25
	県内におけるバイオマスの適正処理による環境負荷削減可能性の評価	H 22 ~ 25
	山梨県の間山地域における定住の状態と環境変化の関連の総合的研究	H 24 ~ 27
基盤研究	環境温度ストレスが情動行動へ与える影響についての研究	H 23 ~ 25
	衛星リモートセンシングデータ及び地上測定データを融合した大気環境の広域評価に関する研究	H 23 ~ 25
	富士山地下水に含まれるパナジウムの中性脂肪増加抑制作用を安全に効率よく利用するための基礎的研究	H 25 ~ 27
	地域特性を考慮した自然公園の空間的利用区分に関する研究	H 24 ~ 27
	衛星データによる土地被覆情報把握の高度化	H 24 ~ 26
重点化課題	急性高山病の要因を脳循環応答の面から検討する～富士登山の安全確立に向けて～	H 25 ~ 27
特定研究	野生動物被害防除技術の効果と影響	H 22 ~ 25
	都市近郊の里山林における「森の癒し機能」の効果的な発揮に関する研究	H 24 ~ 26
	新たな知見、技術を活用する緑の現況調査、緑化計画と緑化事業の総合的研究	H 25 ~ 27

2 森林総合研究所(森林環境総務課)

森林総合研究所は、昭和10年に林業試験場として設立され、その後、林業研修所、林産事務所、林木育種場等を統合した林業技術センターを経て、平成6年から山梨県森林総合研究所として、森林、林業、林産業に対する新たな時代の要請に対応しています。

森林の持つ環境保全や木材生産をはじめとする多面的機能をより高度に発揮させるための調査研究を行うとともに、再生可能資源である木材やきのこ類をはじめとする森林副産物の有効活用技術、効率的な木材生産作業システムの確立、木質バイオマスの有効活用技術の開発に取り組むなど、幅広い行政課題に対応しています。試験研究活動の状況は次のとおりです。

研究目標	部門	研究テーマ	期間
森林資源の造成と管理技術の確立	育林・育種	都市緑化に適した品種の開発	H16～25
		ヒノキ花粉症対策種苗の生産手法の確立	H22～26
		群状伐採による森林造成方法の開発	H21～25
		人工造林地に進入したタケの駆除に関する実証試験	H23～25
森林環境保全技術の確立	森林保護	二ホンジカの森林生態系に及ぼす影響と適切な管理方法の開発	H22～26
		二ホンジカの新しい捕獲技術の適用性試験と改良	H25～28
	環境保全	二ホンジカ影響下の半自然草原における植生復元 - 楡形山における事例研究 -	H23～25
		二ホンジカ影響下における針葉樹人工林の針広混交林への転換技術の開発	H24～27
		治山林道事業における生物多様性に配慮した緑化工指針の作成	H24～26
		持続的な生態的森林管理における希少種管理支援ツールの開発	H25～29
森林資源活用による活性化	特用林産	夏季に収穫可能な特用林産物の栽培方法の確立	H23～25
		タケ資源の有効利用に関する研究	H24～26
	木材加工	高温乾燥における柱材の材面割れの削減方法の検討	H23～25
		針葉樹構造用製材の効率的な品質管理技術の開発	H24～26
	経営機械	未利用木質バイオマスによるエネルギー用材化	H21～25
		森林GISの効率運用にむけた部課横断型GISのDB構築と経営解析手法の開発	H24～26
受託		花粉症対策ヒノキ・スギ品種の普及拡大技術開発と雄性不稔品種開発	H22～25
その他		富士スバルライン沿線緑化試験	S45～
		県有林モニタリング事業	H19～
		松くい虫発生予察事業	S61～
		トウヒツツリハマキ発生予察事業	H14～
		カシノナガキクイムシ生息状況モニタリング	H24～26
		狩猟の担い手の維持の空間的・社会的条件に関する研究	H23～25
		次世代リモートセンシングデータによる高精度な森林バイオマス推定方法の確立	H24～26
		「高山に登る二ホンジカ」にどのように対処するか？	H25～27
		害虫ヤノミガタチビタムシの環境を利用した被害軽減	H25～28

3 衛生環境研究所(衛生業務課)

衛生環境研究所は、県関係部局との密接な連携のもと、県民の公衆衛生の向上と、より良い環境の保全を図るとともに、地域における健康危機管理に対応するため、衛生・環境行政の科学的、技術的中核として、調査研究、試験検査、研修指導及び情報の収集・解析・提供を行っています。

環境に関わるものとしては、大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、環境放射能、温泉及び環境指標生物等の試験検査や調査研究、技術指導を実施しています。

研究テーマ	期間
生物利用型水質浄化システムの構築と応用に関する研究	H23～25
山梨県における地衣類の分布	H24～26
本県環境中におけるNaegleria属アメーバの研究	H24～25
湖沼の生物多様性・生態系評価のための情報ネットワーク構築	H24～26
県内河川水中における重金属の形態分析	H24～25
クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究	H24～26
山梨県内地下水の水質性状と時系列変化	H23～25
山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の実態調査	H24～26
県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査	H24～25
市街地を中心とする蚊類の発生状況調査	H24～25
関東地方浮遊粒子状物質共同調査	H25
PM2.5の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明	H25～27
山梨県のPM2.5による汚染状況に関する研究	H25～27
「音色の目安」作り	H25～27
気象レーダーを用いた富士北麓地域での降水量の推定	H25～27

4 工業技術センター(産業集積課)

工業技術センターは、県内企業の技術の高度化を支援し、その振興を図るため、研究開発、技術相談、依頼試験、講習会の開催、情報の提供などを行っています。環境問題については、公害発生防止など、企業の環境保全活動を支援するための巡回支援や技術相談対応、また環境負荷の少ないクリーンエネルギーに関する研究にも積極的に取り組んでいます。

試験研究機関	研究テーマ	期間
工業技術センター	高効率太陽熱吸収装置の実用化に向けた研究開発	H24～25
	アニオン交換型燃料電池用電解質膜の研究開発	H25～26
富士工業技術センター	ESD法による透明導電膜成膜技術に関する研究	H25～26

5 農業関係試験研究機関

(1) 総合農業技術センター(農業技術課)

環境と調和した農業生産技術の開発のために、有機性資源の有効利用を目的に家畜ふん堆肥などの有機物由来肥料の活用試験や環境への負荷低減を図るため化学農薬・肥料を使用しない野菜類の有機栽培の実証を行うとともに、土壌の適正な養分管理技術について研究を行っています。

また、生物農薬の有効性の確認や有効かつ効率的な病害虫防除法の確立について検討するとともに、県内農耕地土壌の理化学性及び農薬の適正使用に関する調査も行っています。

(2) 果樹試験場(農業技術課)

果樹の減農薬栽培技術として、耕種的・物理的防除、生物農薬、フェロモン剤等の化学合成農薬代替資材および天敵を用いた総合的な病害虫防除法に関する試験研究を行っています。

また、家畜ふん堆肥を中心とした有機物主体による環境負荷低減型施肥法について研究を行っています。

(3) 畜産試験場(農業技術課)

豚、鶏に関して、生産性・効率性を高める高品質安定生産技術、環境と調和した自然循環機能を活かした農業生産方式(糞尿の堆肥化時の悪臭低減技術など)確立のための研究を行っています。

(4) 酪農試験場(農業技術課)

食品製造残さ等の未利用資源を家畜飼料として有効活用し、資源のリサイクルや生産コスト削減を図るための研究を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
総合農業技術センター	栄養調整飼料の給与から得られた堆肥の施用効果	H26～28
	県内主要土壌の地力の推移と変化要因の把握	S54～
	有機物連用土壌における地力窒素の評価	S54～
	野菜の有機栽培に適した耕種的管理技術の確立	H26～30
	新農薬の効果査定	S54～
果樹試験場	省力的な薬剤処理技術の確立	H22～26
	果実への被害を生じない省防除体系の確立	H22～26
	有機物を利用した環境負荷低減型施肥法の開発	H24～26
畜産試験場	豚ふん由来の環境負荷低減技術の確立	H25～28
酪農試験場	竹チップ、竹粉の乳肉用牛に対する活用方法の検討	H24～26

(5) 水産技術センター(花き農水産課)

魚類生息環境の保全に関する試験研究調査や希少魚に関する調査研究を行うと共に、関係者へ指導普及を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
水産技術センター	カワウ対策に関する研究	H25～27
	クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究	H22～26
	希少魚類生息調査	H13～25